W校中高等部だより

平成 25（2013）年 12 月 21 日
ニューヨーク補習授業校
ウエストチェスター校

のみの市　特集号!!

～＄3,187 を「アフリカに学校を建てる」プロジェクトへ～



11 月 16 日に中高等部恒例の「のみの市」が行われました。「のみの市委員会」では、昼休みを利用し、生徒会メンバーの高校生を中心に、のみの市を実施するための具体的な計画を立てて準備を進めてきました。集まったお金は、「アフリカに学校を建てる」プロジェクトの機関に寄付することに決定しました。

今年度ののみの市も、のみの市委員をはじめとする全校生徒の活躍と保護者の皆様の多大なご協力により、たいへんすばらしい行事になりました。幼児部の子どもたちのためにゲームを用意したり、また、一般の人向けには手作り品や家庭からの寄付による物品、さらに、ベイク品などを売ったりし、たくさんの方に楽しんでいただきました。一時は足の踏み場もないくらい大勢の人で賑わい、会場は熱気に包まれていました

このののみの市という活動を通して一人ひとりが考えたり経験したりして学んだこと、そしてクラスごとに活動したことでパワーアップさせた団結力を、毎週の授業日の学習・生活・各種活動に生かしながら、今後の学校生活をより充実したものにしていってほしいと思います。

クラスをリードし、のみの市の成功に大きく貢献しました。お疲れ様でした。

のみの市実行委員

委員長　木原　慧人（高２）

中等部１年	中等部２年	中等部３年	高等部
松野 恵美里、長浜 理紗 清水 美緒、 鈴木 一葉 椋代 瑠威、太田 有希乃	福島 大朗、安倍 野映 山口 香蓮、伊丹 勇太	前田 花帆、 三井 寛子 中田 泰寛、 竹田 幹大	立石 恵利也、ｱｷﾞｽｷｰ 実奈 安倍 結花 ﾌﾟﾘｯﾂｶｰ純、ﾌﾟﾘｯﾂｶｰ慶、 中村 将大、滝田 良

生徒の感想

「のみの市で感じたこと」

中 1-1　吉川　舞

私はのみの市で初めて物を売る仕事をやりました。当日、私は想像以上に人が来ていてとてもびっくりしました。先ず初めの幼児部の的当ては、小さい子たちがたくさん来てくれました。しかも長い列ができていたので、すごくうれしかったです。私は少しだけだけど、小さい子達に優しく声をかけることができました。小さい子達はとてもかわいかったです。

次に、私はベイク製品を売りました。私はお客さんに、
「〇〇円です。」「おはしいりますか。」「ありがとうございました」
などと言えたので良かったです。

最初は売れるかどうか心配でしたが、お弁当はどんどん売れていき、ベイク製品は１回目ですべて売れました。とてもうれしかったです。

最後に、私はかき氷を担当しました。ベイク製品が売れるのが早く終わったので、かき氷を手伝いに行ったら、たくさんの人が並んでいて、私は必死でかき氷器を回しました。想像以上に手が疲れました。外はどんどん寒くなってきていたのですが、のみの市に来ている人達とかき氷器を回すので、私はとても暑く感じました。

だんだん終りに近づいてくるにつれてお客さんは少なくなっていきました。かき氷のお客さんがいなくなってきたので、あまった氷で自分達ようにかき氷を作りました。私はいちご練乳で食べました。みんなで食べられてとてもおいしかったです。その後に、１年１組の横でクレープを作っていた福田先生が、
「チーズ味のクレープ食べる？」
と聞いてきたので、私はすぐにうなずきました。それもただで食べられました。とてもおいしかったです。

私は補習校に入ったばっかりでまだあんまり話したことのない人もいましたが、のみの市でたくさん話せたので良かったです。また、みんなで協力してのみの市ができたので大成功だったと思います。さらにお金が去年よりたくさん集まったので、困っている人たちに寄付し、少しでも喜んでもらえたらいいです。来年も楽しみたいと思います。

「みんなで団結『のみの市』」

中 1-1　奥田　りりか



今日は 11 月 16 日、のみの市がある日でした。私達はこの日のために、何週間も前からポスターを作ったり、材料について話し合ったりしてきました。

最初は、幼児部の子供達が来ました。私はまと当てを手伝っていました。私は、他の人たちが宣伝をするのを手伝って、久しぶりに大きな声を出しました。最初の方は恥ずかしかったけれど、慣れてくると楽しくなってきました。ポスターを持って歩くのは恥ずかしくてできなかったけれど、来年はチャレンジしたいです。

次に 6 年生が来た後、一般の人たちが来ました。私は最初、かき氷のグループでした。お客さんは私が想像していた人数よりも、はるかに多く、頭がぐるぐるしてしまいました。ですがとても楽しかったです。でも、失敗したところもありました。最初の方では列がちゃんとしてなくて、だれが先で、何がほしいのかがわからなくて、何人かのお客様を待たせてしまいました。ですから来年は同じ失敗を繰り返さないように注意しようと思います。

私の次の場所は、雑貨でした。雑貨ではめぼしい品はすでに売れてしまっていたせいか、あまり人が来なかったので、ほっとしました。お客さんはあまり来なかったけれど、楽しんでできました。一度、女性のお客さんにイヤリングをおすすめして、買ってもらえたのは、とてもうれしかったです。

雑貨の時間が終わりそうなあたりで、武神さんに代わってもらってお昼ご飯を食べました。私は買わないで、家から持ってきたサンドイッチを食べた後は自由時間だったので、かき氷の方へ行きました。そしたら長浜さんと一緒に職員室にかき氷を売りに行くことになり、私は片手にイチゴ味のシロップ、もう片方の手にブルーハワイのシロップを持ち、長浜さんはお盆の上に 3 つの氷を入れた器を持っていきました。なんだかんだ言って結局先生方は 3 つとも買ってくださいました．イチゴ味の方が先生方は好きで、ブルーハワイは人気がありませんでした。今度やる時は、6 個ぐらい持っていきたいです。

その後は特に仕事もなく、みんなでかき氷を食べたりしました。かき氷は甘くて、ひんやりしていて、とってもおいしかったです。

終わった後に、集まった金額が去年の 1.5 倍だと聞いたときにはうれしかったです。最後に、みんなで写真をとりました。たぶん私はこの日のことを一生忘れないと思います。とても忙しかったけれど、とても楽しい 1 日でした。

「のみの市の教訓」

中 1-1　栗津　義太郎

のみの市を経験して、僕は 2 つのことを学びました。それは、接客と、みんなで協力して一つのことをする楽しさです。

僕は幼児部と 6 年生が来た時、それとそのあとの 20 分、雑貨を担当していました。この雑貨のブースでの接客で、一番難しかったのは、誰にどのようなものをすすめるかということです。例えば、6 年生や大人の人にぬいぐるみをすすめるのはあまり良い考えではないかもしれません。でも、それらのぬいぐるみを幼児部の子供達にすすめるのは適切でしょう。このことを見極めるのは時々大変でした。もう 1 つ、接客で学んだのは、話し方や言葉遣いをうまく使い分けることです。これは、大人の人には敬語を使い、幼児部の人たちにはわかりやすく、優しく話して接するということです。これもすすめる商品と同じく、場合によって違ったので難しかったです。



のみの市で、僕は友達と協力して 1 つのことをする楽しさを感じました。出し物を決めたり、ポスター作りの時から、クラスみんなで準備し、当日もみんなでのみの市を成功させました。1 人 1 人が参加し、全員で協力することの喜びを僕は感じました。まさに、「団結」でした。

のみの市は、僕にとって、とても有意義で楽しいイベントでした。それに加えて、接客の難しさと、協力してのみの市のように 1 つのことを達成することの楽しさを僕に教えてくれました。来年度ののみの市も、よりよい成功を目指して頑張ります。

「仕事をする楽しさ」

中 1-1　武神　美奈

昨日の「のみの市」は、色々な体験ができてとてもいい思い出になりました。補習校の「のみの市」で実際に仕事をするのは初めてでした。去年やおととしは「のみの市」を 5 分ほど見て帰っただけでした。しかし、昨日実際に参加してみて、そこで買い物をするより物を売った方がより楽しいことがわかりました。

昼休みの時間や学校が始まる前からのみの市のことを話したのも良い思い出です。朝からポスター作りで盛り上がったり、みんなが的当て用の賞品やコップで遊んだのも忘れられません。昼休みにみんなで係や当番を決めたのものみの市の体験の一部分です。私はクラス全員の目的が 1 つにまとまると働きやすいことにも気づきました。

私は賞品を集める係でした。家ではもう使わないおもちゃやシールなどを妹達と集めました。大きいトレーダージョーズのペーパーバッグに入れて、ほかの人達がもってきた物もそこに足しました。その集まった賞品を小さい子供達が喜んで取っていくのを見ると、うれしくなりました。

マト当て、かき氷、雑貨の係の中で一番大変だったのはマト当てでした。相手が幼児部の子供達なので、悲しい思いをさせないようにとても気をつかいました。しかし、妹が来た時はふつうでいられました。あまり差がない態度だったことを願っています。のみの市が始まる 5 分ほど前に、マト当てのピラミッドを立体的にして形をかえたけれど、すぐみんな慣れました。

かき氷を手伝っていた時はとてもいそがしかったです。私はシロップをかける係でした。でも、作り始めてすぐルーティンらしいものができて、とても作りやすくなりました。

のみの市でクラスのみんなともっと仲良くなれたと思います。来年ものみの市をやるのが楽しみです。

「蚤の市」

中 1-2　長瀬　茉結



今年は私にとっては初めての「蚤の市」でした。去年、六年生だった私は客として「蚤の市」に参加しました。1 つや 2 つしか歳が変わらない人たちが自分たちだけでイベントを開いている、それを知ったときはただただ憧れるだけでした。陰で先生や親までが苦労して準備をしているとは思ってもみませんでした。

今年、中等部に入って球技大会や「蚤の市」などのイベントにわくわくしていました。「蚤の市」では出品するお店を決め、シフトや役割分担を考えるのは容易ではありませんでした。時には、というより、ほぼ毎回生徒たちの間で議論が起きました。でも私はクラスが「団結」してきているのに気づきました。

「蚤の市」当日は楽しみでもありましたが、不安の方が大きかったです。「誰もパンケーキを買ってくれないのではないか、幼児部はゲームを楽しんでくれるのだろうか」そのような事ばかり考えていました。そしてとうとう最初のお客さん、幼児部の子供たちが会場にやってきました。私はゲームの会計係でした。いくつも歳が離れた小さな子と同じ目線で話すのは大変でしたでしたが、可愛い笑顔を見ると心が和みました。食べ物の出店では、次々とお客さんが来たので、盛り付けが雑になってしまいました。でも「美味しい！」と言って食べているお客さんの姿を見たので安心しました。

準備から後片付けまですべて生徒たちに任せられていた「蚤の市」は私にとって貴重な経験となり、私を成長させてくれた気がします。

「蚤の市」

中 1-2　田岡　真実

補習校で一番大きな行事が終わりました。準備から後片付けまでずっと大変だったけれど、自分たちも楽しめたし、よく知らなかったクラスメートとも仲良くなれたのでうれしかったです。

学校で決められなかったものはほとんどメールで話し合いました。でも、なかなか決まらなくて直前まで話し合っていました。この部分はもっと協力していれば、もう少し要領よく働けたかなと思います。正直、心配で大丈夫かなとずっと思っていました。しかし当日はみんな頑張ってくれて、お客さんだけではなく私たちも楽しめる「蚤の市」になりました。最終的には私たちはクラスとして「団結」できたと思います。

今年の失敗と成功を生かして、来年の「蚤の市」に参加できるといいなと思います。「蚤の市」はすごい経験だと思うので、来年も全力を尽くしたいと思います。

「団結」

中 1-2　堀内　美波

今年の「蚤の市」のテーマとなった「団結」という言葉、私はこれまであまり深く考えたことはなかったけれど、これを機会に考えてみることにしました。そしてみんなと協力して一つになること、という結論に達しました。本番はとにかく協力する、ということを目標にすることにしました。

待ちに待っていた「蚤の市」当日がやってきました。予想はしていたけれど、予想よりはるかに多くの人で会場は一杯でした。私が立てた目標がうまくいくかと不安になりました。その時私の頭に「蚤の市」のテーマ、「団結」という言葉が浮かんできて、全力を尽くして頑張ろうという気持ちになりました。ところが私たちのお店にはあまり人がこなくてどんどん気持ちが沈んでいきました。私と友達がいくら声を出しても来てくれたのは 1 人か 2 人でした。そのとき「何かやることはある？」と聞きにきてくれた友達がいました。そしてみんな見本を持って歩いてくれました。すると、前よりも多くの人が買いに来てくれました。

期待したほど売れたわけではなかったけれど成功した「蚤の市」だったと思います。「蚤の市」のテーマが「団結」でよかったなと思いました。

「頑張った初めての『蚤の市』」

中 1-2　三井　直子

先週、私は初めて「蚤の市」に参加しました。クラスで一丸となって必死で上級生に負けないようなお店にしようと頑張りました。例えば、毎週来られる人は早く来てポスターを作ったり、補習校がない平日なども、みんなでメールし合いました。それでも意見はなかなかまとまらず、「蚤の市」委員に任せっきりのところもありました。特にシフトを決めるのはとても大変でした。ランチの時間や担当の関係で 5 回も組み直しました。



「蚤の市」当日、幼児部のゲームの時は順調だったものの、あんなに頑張って組んだシフトのランチ時間が間違っていたことがわかり急遽、組み直しました。ところが全員に行き渡っていなかったようで、お店に誰もいないこともよくありました。その後は順調でした

が、私たちのお店はなかなか売上を伸ばせませんでした。一方、隣のクラスのお店の前にはいつのまにか行列が出来ていました。私たちは最初、隣のクラスがかき氷を売ると聞き、夏じゃないから絶対売れないと思っていました。でも「蚤の市」の会場は真夏のように暑くて、まさにかき氷など冷たいものがほしくなるような感じでした。

最後の会計の時私はすごくドキドキしていました。私たちの目標は 500 ドルでした。しかし私たちの合計は 482 ドルと、惜しくも 18 ドル目標には届きませんでした。

今年はとても悲しい結果に終わりましたが、みんなで頑張り絆も深められたので良かったと思います。来年は今年の経験を活かし、より多くのお客さんに来てもらえるような「蚤の市」にしたいと思います。

「タピオカ」

中 2　ハナガン　りりあん

どうしよう。

鍋の中の黒い物体を見つめながら、ぼんやりと思った。私は、のみの市で売るバブルティーのタピオカを茹でるはずだった。しかし、タピオカは、茹で始めて数分もたたないうちに粘土のようにくっついた。しかも焦げた。

クラスのみんなは、「大丈夫だよー。」と励ましてくれた。実際、タピオカを茹でるのに成功した子もいたので本番ではミルクティーが切れた後もタピオカはあまるほど残った。おかげで、最後の 30 分はタピオカ大盛の大サービスをすることができた。

朝からのみの市の終了まで驚きっぱなしだったが、もっと驚いたのはその後のことだった。私が補習校へ行った後、母がタピオカを茹でて学校まで持ってきてくれたということを知ったのだ。あのタピオカを茹でるのは面倒で難しいし、その上、家と補習校の距離は離れているので、いつも忙しい母がわざわざ持ってきてくれたというのが信じられなかった。「大変だったよー」と笑って言った母に、感謝の気持ちでいっぱいだった。



私はよく「優しいね。」と言われるが、もし私が母だったらあんな面倒臭いことをしていただろうか。母は、普段は冗談ばかり言ったり、イライラして怒ったりすることもあるが、子供が本当に困っている時は本気で助けてくれる。私は母のように本当に心から優しい人になりたい。これからいろんな人に会い、その中でたくさんの選択をするだろうが、その度に母を思い出したい。

中 2　伊丹　勇太

僕が「のみの市」のことを知ったのはこの学校に転入した、去年の 12 月です。
その時に見たこの補習校のホームページには、終わったばかりののみの市の様子が、今ではすごく仲の良い同級生や先輩方の写真と一緒に載っていました。

アメリカに来てから約一年、僕にとって初めてであるのみの市の日が近づいてきました。
僕は真っ先に実行委員に立候補し、中高等部の話し合いに参加しました。クラスの話し合いでは他の実行委員と共に、自分たちは何をするか、集まった寄付金は何処に渡すのが、最善であるのか・・・などの決め事について話し合い、スムーズに決めていきました。

また、一人の生徒としてクラスメートと協力し、ミルクティーを試飲したりポスターを作ったりもしました。

そしてやってきたのみの市当日では、クラスメート一人一人の個性がうまく発揮されていて、ある者は親や先生達をもしのぐリーダーシップでグループをまとめ、ある者は普通なら売れないような雑貨を見事売りました。

今年ののみの市でうちのクラスはミルクティーをほとんど売り、保護者方が丹精込めて作ったベイク品は全て売り切ることができました。また、ベイク品は早い時間帯で完売したため食事を含めた休憩時間では他の店を回ることができました。

こうして終わった今年ののみの市では去年より約＄700 多い約＄3,000 の寄付金を集めることができました。また、うちのクラスが稼いだ金額は約＄600 で儲かったと皆で喜びましたが、それが全体の平均であるとわかったときに僕は知らぬが仏だったと少し後悔しました。

今回ののみの市はテーマである「団結」にあった素晴らしいものでしたが、正直もう少しどうにかならないかという点もありました。もし、僕がのみの市を動かす、または変えるに足る権限を手にすることができたら、のみの市をさらに素晴らしいものにしていきたいと思っています。

『のみの市』

中２　小野　元暉

11 月 16 日に、補習校でのみの市が行われた。この活動は中高等部の生徒たちに計画され、その生徒たちが行った。

「中２は何をのみの市に出して売るか。」などとクラスと話し合っているとみんなが様々な意見を出し、クラスが一つになった。最終的に、中 2 の出し物はタピオカバブルティーになり、幼児部のための遊びは魚釣りゲームに決定された。

のみの市のポスター作りや魚釣りゲームの作成、バブルティー作りはみんな必死に頑張った。仲の良さには関係なく、僕たちはお互い助け合った。誰かが助けが必要なときは大勢で手を貸し、困難な作業も気合を入れて成し遂げた。このチームワークと努力の結果、中２の出し物はとても人気があった。

のみの市の日、僕たちは四つの班に分かれ、各班は違う仕事をした。30 分おきに仕事をローテーションした。僕の班に最初のシフトは休憩だったので僕はいろいろな出し物を見たり、各学年の食べ物を試食した。どの食べ物もとても美味しかった。

『みんな心を込めて作っているのだな。』

とぼくは思った。

次のシフトはクラスの食べ物の販売だった。そこに行って１番初めに気づいたことは大勢の人たちがバブルティーを買いに並んでいることだった。1 人 1 人のためにバブルティーを作っていたらとてもではないけれど客の数に追いつかないので一遍に 10 個、20 個用意した。それをしてもまだ客は来るので僕の班の人たちはみんな大変だった。こんなに多くの人たちが購入したので、すぐに売り切れてしまい、材料を買ってこないといけなくなったぐらいだった。



3 つ目のシフトは保護者たちが作ってくださったベイク品の販売だったが、もう中２のベイク品はとっくに売り切れていたので２度目の休憩になった。

最後のシフトは雑貨の販売だった。もう最後に残った商品しかなかったのでなかなか売れなかった。僕と何人かの友人たちは

『これを購入したらお得ですよ！』

などと叫んで何とか商品を売ろうとした。多くの人たちに

『何をやっているのだろう。』

と見られたがそのうち、誰も見向きもしなかった商品も買われていった。これは僕たちのおかげだと僕は信

じている。やがてこの最後のシフトは終わり、のみの市に幕が閉じた。
　このように楽しく、人気のあるのみの市はみんなの努力とチームワーク、みんなの保護者たちの助けとサポートがなければ決してできなかった。クラスのみんなやいろいろと手伝ってくださった保護者たちにとても感謝している。来年ののみの市はもっと人気があり、楽しいことを僕は願っている。

「のみの市」

中２　長谷川　瑛己

　先週の土曜日は、補習校で年に一度ののみの市でした。3 週間前からこの日のために準備してたので、ぼくは待ちきれませんでした。ぼくのクラスは、魚釣りのゲームとバブルティーを売ることにしました。ほとんどの人は、タピオカが好きだと思うのでぼくはバブルティーはすごく売れると思いました。学校にいる間は、のみの市の事しか考えられませんでした。それで 3 時間目が終わり、働くモードに入りました。すぐにゲームの用意をした後、最初のお客さんが来ました。幼稚園と 6 年生たちは、ゲームと品物しか買えなかったので、ぼくは寄付するお金がちゃんとたまるか心配でした。でも小学生たちの授業が終わった後に、人がいっぱい来始めました。思ったよりたくさんの人たちが押し寄せたので、品物を売る所にいる時は売るのが大変でした。1 時間半ぐらいして、人があまり来なくなったのでゆっくりできました。ぼくたちのバブルティーは大ヒットで、早く売れ切れました。それでもまだ買いたい人達がたくさんいたので、クラスのお母さんが飲み物を買いに行ってくれて、また販売することが出来ました。ぼくは、最後にお金を数える仕事をしましたが、思ったより多くのお金が集まったことはうれしい驚きでした。自分たちも楽しむことができて、さらに誰かの役に立つこともできるのでぼくは、のみの市はいいイベントだと思います。

「今年ののみの市」

中2　和田　元基



　今年ののみの市は、ぼくにとって初めてののみの市だった。
のみの市のイメージは、僕のなかで夏祭りのようなものだったのだが、実際は大分違った。のみの市は、夏祭りのように派手という訳でもなく、人もまばらで地味だ、というのがのみの市が始まったばかりのときの印象だった。しかし、その印象はすぐ変わった。なぜなら、小学生の授業が終わり、その子達とその親がのみの市を見に来てくださったからだ。すると、のみの市はだんだん賑やかになり、とても混雑し始めた。のみの市の始めあたり全く売れていなかった雑貨は次々と売れていった。また、クラスで出していたバブルティーも飛ぶように売れ、募金にかなり貢献できたと思う。その他にもベイク品なども完売し、今回ののみの市は成功した。初めてののみの市だったが、僕も楽しく活動することができたし、最終的にのみの市の印象は夏祭りに負けず劣らないとても良い印象だった。
　しかし、今回ののみの市を思い返すと、僕には反省が多々ある。例を挙げると、魚釣りでの僕の幼児に対する説明が、うまくいかなかったこと、また、自分の宣伝の声が小さかったことなどがある。
　これらの問題の原因は、僕ののみの市での準備が足りなかったことだと思う。確かに、初めてののみの市で全容を理解していなかったのはしょうがないが、それを差し引いても今回は準備不足だった。クラスの役に立てな

かった、それが今回ののみの市で一番悔しいことだ。

結果的に今回ののみの市は全体的には成功、自分的には失敗、という形で終わった。もし、来年ののみの市も参加できるなら、次回は今回のような失敗は絶対にしたくない。だから、来年は全体的にも、自分的にも成功だ、と胸を張って言えるのみの市にしたい。今年ののみの市は、反省することと、学ぶことがたくさんあり、良い経験になった。

「のみの市　2013 年」

中 3　グレイ　希望

今年ののみの市もまたまた楽しくがんばる事ができたと思う。今年ののみの市のテーマは「団結」だった。中・高等部が皆、のみの市を成功させて楽しむためにそれぞれのクラスで努力した。

私のクラス（中 3 ）では、まず今年の売り物は何にしようか話し合った。長い時間考えたり話し合ったりした上、プリンにすることにした。去年と違い、イーメールをしたりして補習校以外の時を使って話し合うことができてとてもおもしろかった。意見を出したり、必要な物を確認する努力をした。ポスター作りではていねいに色を塗ったりして、お客さん向けのとてもきれいな可愛いポスターを作ることができた。私のクラスはあまり大きくないのでのみの市のためにみんなとても頑張った。それに、今年は中学 3 年生になったので責任感を去年より多く感じた。

のみの市の前の日の夜、クラスの女子は頑張ってプリンを作った。朝には、色々な物を持っていかねばならなかったので、私はかなりあせった。車の中で、ひざの上に乗せたプリンの入ったクーラーを大切に抱えて、プリンが壊れていないか心配しながら学校に登校した。学校の授業は国語と数学しかなかった。

最初は幼児部の子供たちが来てわいわいゲームをしたり、いろんな物を買ったりして楽しんでくれた。次は 6 年生たちも来ていろんな物を買っていった。他のお客さんが入って来て、各クラスが何グループかに分かれ、ローテーションでプリンを売ったり、お弁当を食べたり、物やベイク品も売ったりした。お弁当の部屋で私はお弁当を食べていると、前と違って人数が多い気がした。その時、今年は中 1 のクラスが 2 組あるんだなと思い出し、なんだか嬉しかった。のみの市で最近補習校をやめた友達も来てくれてとても嬉しかった。周りが忙しい中、人がたくさんいてとてもにぎやかで楽しかった。時間はあっと言う間に過ぎ、後片付けをしてお金の会計をした。これは毎年変わらない事である。

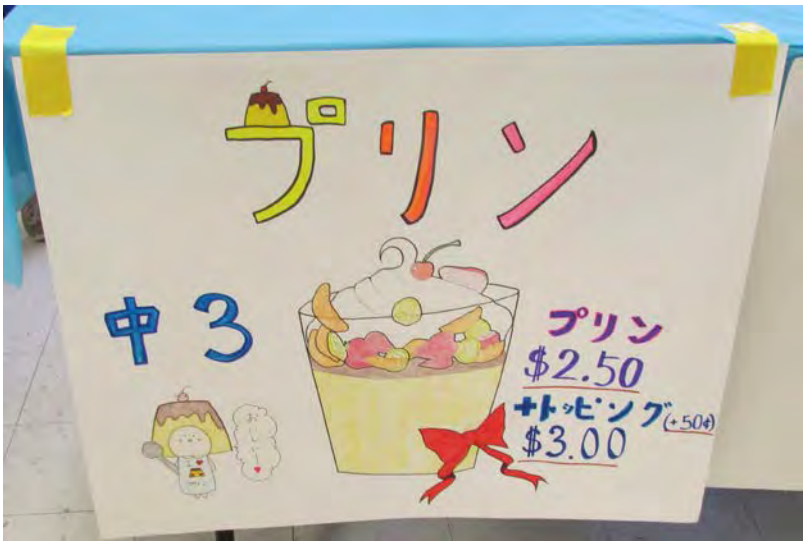


最後に皆集まって生徒会長が今年集めた寄付金の合計を発表した。去年の 1.5 倍だと言われて皆喜んだ。皆それぞれがんばって団結することができたと感じる。これからも中･高等部の皆でのみの市を成功させて楽しんでいきたいと思う。

「のみの市」

中３　木村　美奈

いつの間にか、のみの市の時期になりました。３年生は出し物がなかなか決まらなくて、３回目の話し合いでやっと決まりました。来週がのみの市という時にまだ準備がすんでいなくて、ギリギリでした。



でも、今年は中学３年生としてゆっくりなペースでいいかな、と思っていました。中１と中２の時はいそがしかったので、今年ほど楽しめなかった感じでした。

今年は生徒全員参加する意気込みが高かったです。他のクラスと競争するより、楽しく出し物を売る生徒たちが見られました。中２のテーブルの近くにいたら、中１の生徒が自分のクラスのパンケーキをバブルティーと交換していました。なごむ光景でした。

正直には、中３の出し物が売れるか心配でした。プリン１個で３ドルは高すぎないか、など思っていました。しかし、沢山の人がプリンやベイクを買ってくれました！お母さん達も頑張ってくれて、うれしかったです！

みんなが助け合って、中３として団結できたことが誇りに思います。もし来年高等部に進学したら、のみの市が待ちどおしくなると思います。

「のみの市を終えて」

中３　三井　寛子

今回が初参加だったのみの市。今年は「団結」をテーマに中高等部がアフリカへ送る学校建設用の寄付金を集めるためにそれぞれのクラスがどのようなお店にしたらお客さんが来てくれるかなど１か月ぐらい前から計画を練った。私は今回、のみの市委員として休み時間の委員会やクラスでの話し合いなどに参加した。

初めにどのようなお店を出すかクラスで決めなければならなかった。私たちのクラスは、食べ物は水あめにしてゲームはスーパーボールすくいにしようと話していた。しかし、問題点があった。まず、水あめはどうやって作るか迷った。水あめを固まらせるには、巨大な氷が必要だった。だが、そんな巨大な氷などどこにも売っていないし作るのも困難なので、相談の末その案は却下された。スーパーボールに至っても、お金がかかり過ぎるということで、却下になった。その後も皆で案を出し合って、やっとプリンと輪投げに決まった。

その後は、どうしたらお客さんに来てもらえるかなど何か工夫できないか考えた。補習校の時間に話し合えなかったことなどは帰宅してから、メールで話し合った。そして学校では、ポスター作りも行った。当日来ないと決まっていた友達も、とても協力してくれた。はじめに何の店を出すか話し合いに時間がかかってしまったため、あまり余裕はなかったがクラスで協力して作業を進めどうにか間に合った。

当日は、とても時間が経つのが早く思えた。特に問題が起きることもなく、用意していたプリン百個をすべて売り、幼児部用の輪投げも楽しく遊んでもらえて、すべては成功に終わった。売り上げも、去年に続き中高等部すべてのクラスの中で一番だった。終わった後は達成感にあふれた。クラスメイト全員で協力し合えたので、またクラスが少しまとまったのではないかと思う。心に残るとてもいい思い出ができて良かった。

「のみの市」

高１　立石　恵利也

今年の、のみの市の準備は順調に行き、のみの市は大成功でした。
10 月の初めから各学年のクラス代表による委員会があり、話し合いはうまくいきました。今年の高等部は出し物として「和風クレープ」を、幼児部向けゲームでは「ピカチュウ玉入れ」をすることに決めました。毎週、少しずつ準備としてポスター作りや玉入れ用のピカチュウの玉入れの絵を描いたり、賞品のぬいぐるみを集めたりしました。

のみの市の前の日は、木原君の家に集まり、みんなでクレープの生地作りをしました。クレープ作りはターン式で行い、2 人か 3 人のグループに分かれて生地を焼きました。クレープの生地ができ上がってから、みんなでゲームをしたりして楽しい時間を過ごしました。

のみの市の当日は朝早くから最後の準備をし、3 時間目の後、のみの市が始まりました。
幼児部の子ども達が最初に来ました。ピカチュウが的だったからかもしれませんが、玉入れゲームは大人気で、たくさんの子ども達が並んで来てくれました。幼児部の子ども達が帰った後は６年や一般の人がたくさん来て、クレープもたくさん売れ、ベイクセールはすぐ売りきれになってしまいました。

クレープを売りながら思ったのは、たくさん人が並んでいるのに作るのに時間がかかっていたので、もっと早く人の流れを進められればあまり混まなくてよかったということです。

また、のみの市委員会のミーティングは、1 時 10 分から始まるはずだったのに、みんなが集まって実際に話し合いが始まったのは 1 時 20 分過ぎからだったので、もっと早くから始めれば、もっと順調に話し合いを進められたかもしれません。

今年ののみの市は全学年が団結し、1 つになって働けたと思いました。そして、今年ののみの市は今までののみの市と違って、僕にとっては一番楽しかったのみの市でした。来年は高等部最後の学年になるので、さらに楽しいのみの市を企画したいと思っています。

「高等部の取り組み　のみの市」

高１　アギスキー　実奈

私がのみの市に参加するのは今年で 4 回目です、今回は高等部の先輩として、生徒会の一員として開催する側となったので、今までとはとても違う経験ができました。生徒会は後輩をリードし、物事の決断をする責任があり、取り組みが中学の時とは全く違いました。私自身は昼までダンスがありましたが、会議にはほぼ参加でき、当日もギリギリで行けたので、何とか活動に参加できましたが、幼稚部のゲーム係りや朝授業の前にする準備などができなくて残念でした。そして開催側になるとやはりあっという間に終わってしまいます。



クレープは高等部伝統の出し物ですから、私はクレープ作りを待ち望んでいました。前日にみんなで生徒会長の家に集まってクレープを作ったのがとても楽しかったです。かわりばんこで生地作り、休み組と仕事組にわけながら働きました。生地作りは意外とはまるもので楽しかったです。フライパンだけで生地をひっくりかえす技に挑みましたがなかなかうまくいきませんでした。しくじったときは慌てて生地をまっすぐになおしました。

当日遅れて入った私は、人ごみをかきわ

けて高等部のエリアに着きさっそく仕事を始めました。ベイク品はとっくに完売し、ほとんどクレープの場所にいました。やはり一番人気の味はチョコフルーツクレープで、大人に人気だった和風クレープやチーズクレープよりずっと多く売れました。

高等部に入ると中等部とは違って生徒会活動で色々新しい経験ができ楽しいです。のみの市も今年は去年よりもっと売り上げが多く、寄付する額が多くて達成感がすごくありました。来年ののみの市が今から待ち遠しいです。

「最後ののみの市」

高２　安倍　結花

今年もあっという間に秋が来て、私達高 2 は、とうとう最後ののみの市を迎えた。もちろん、そんなことをしみじみ思う余裕もなく、日々は過ぎ、そしてのみの市は終わってしまった。1 つ後悔があると言えばそのことであろう。目の前にあることに捕われ、時計の針が動く音を耳に入れず、時間が確実に残り少なくなっているということに私は気付けていなかった。



のみの市の 1 週間前は、もうどうなることかと思っていた。ポスターや玉入れゲームの準備が全く終わっていなかったし、クラス自体があまりまとまっていなかった。他のクラスはちゃんとまとまっているのに、高等部だけしっかりやれなかったらどうしよう‥そんなことに気を取られているうちに、のみの市の前の日の金曜日になってしまった。

この日は生徒会長の木原君の家に泊まりがけでクレープの生地を焼いた。一生懸命みんなで交替でクレープを焼いていると、自然にみんなの気持ちがひとつになり、明日は団結してやるんだという気持ちになってきた。

夜遅くまで起きていたので、のみの市の当日はクラクラだったけれど、みんなの絆が深まり、団結して精一杯の力でのみの市を行うことができた。時間があっという間に過ぎて行ってしまったことは悲しかったけれど、こののみの市で私は一生の思い出をたくさん作った。

子ども達の笑顔や人々の楽しそうな様子、そしてクラスメートと団結して、クレープ出店や幼児向けゲームに取組んだこの時間は、私の一部となり消えることはないであろう。

「団結　のみの市」

高２　木原　慧人

とうとう最後ののみの市が終わった。通った回数は 7 回、のみの市委員として参加した回数は 4 回、生徒会長として執行した回数は 1 回、合計で僕は 12 回ののみの市に出席した。これでもう補習校生徒としてのみの市に参加する日は来ないのかと思うとさみしくなる。しかし、頼もしい後輩を見て、売り上げ金が去年の 50%も多くて、大勢の人に支えられて、思い残した事はない。

今年ののみの市テーマは「団結」。団結とは人々が一つにまとまって、力を合わせ、共通の目的を達成するという意味だ。それぞれのクラスがどこの場所へ寄付したら一番お金を有効的につかってくれるか、誰が宣伝用のチラシを張ってくれるか、などみんなでアイデアや意見を出し合った。のみの市当日はみんなが全力で頑張り、何と 3187 ドルの売り上げが出た。売上金はアフリカのカメルーンに学校を作るためのプロジェクトに寄付をした。このお金で学校を作り、多くの子供達に学校の素晴らしさ、教育を受けられることの喜びを感じてもらえたらいいなと思う。

　こののみの市で一番心に残った事は後輩の頑張りだ。一生懸命寄付先を調べてくれたり、のみの市のチラシを張ってくれたりした。一つのクラスはリストに載っていないお店へ行って頼んでくれたりしてすごくありがたかった。チラシを貼ってくれる人は高等部抜きでほとんど決められたので「高校生全然貼らないじゃん」などと言われてちょっぴり恥ずかしかったのは今も覚えている。

　補習校中高等部の団結もあったがもう一つの団結もあった。それは高等部での団結だ。のみの市前日、僕のクラスのほとんどがクレープ作りのために僕の家に泊まり込みで集合した。みんなでクレープの生地を作り、幼児部向けゲームの相談やのみの市当日の仕事のことなど、息抜きにゲームもしながら夜遅くまで話し合った。僕のクラスは幼児部、1年生からずっと通っている友達が多いけれどこの1日で絆がもっと深まった。

　最後ののみの市が終わって、残る行事は冬祭りとイヤーブック、百人一首大会だ。それらの行事が終わったら、来年の3月に僕達高2は補習校を卒業する。たくさんのいい経験もできたし、友達をいっぱい作った。もちろんつらい日々はあったがやはり補習校を続けてきて、また生徒会活動を頑張ってきてよかったと、今、僕は思っている。

